

## 平成29年度 尚恵学園の基本

### 【Ⅰ】尚恵学園のモットー「理念」 『 共生 』

自分の力で生きて、働いて、友と寄り添い助け合い  
共に良かったと感じたい。

### 【Ⅱ】平成29年度

良きサービスを通じて 利用者の心を打つ満足の提供！  
創意・工夫・責任・まごころをもって限りない挑戦。

### 【Ⅲ】今年を創立60年からの再スタート元年に！

創立（昭和31年：1956年）から60年が経ち、その歩みから見えて来たことは、実に多岐にわたっており、それぞれの背景には何があって どう事業を進めて行くかという難しい舵取りが求められている。それへの挑戦が今後ずっと続いていくものと思われる。福祉業界は一口に言って 多種多様な事業体との競合時代に入ったと言える。国は 従来の厚労省を中心としたものに財務省が深く関わる政策転換に大きく流れが変わった。社会保障費抑制策と併せ新たな時代に対応した福祉ビジョンが示された。それは 高齢者、障害者、児童等の対象者にかかわらず包括的・総合的に支援する仕組みを構築するというものである。今 社会福祉法人への既得権は見直され 民間の全業種に求められていることと同じ ミッション（使命）に対し確たるビジョン（構想）を提示し それに如何に応えたかという厳しい査定を受けなければならなくなった。

我々が今後 生き残っていけるかいなか その重要な転換期に入ったという思いがある。その危機感と一刻の猶予も許されない挑戦者であることを確信する。

#### ・・・平成29年度の重点実施項目。・・・

- ① 平成28年度に法人内に設置した在り方検討委員会の提言に基づいた 事業の検討と組織の再編。（別冊：『尚恵学園在り方検討委員会報告』参照）
- ② 社会福祉法人制度改革に伴う見直しと強化策（人事・労務・財務・サービス・リスク等 別紙：『全国経営協 分野別事項一覧』参照）。
- ③ 国が奨める『地域共生社会』の実現をめざす。（土浦市近辺の実態把握と実施）
- ④ 専門性の向上と他事業所との差別化。

法人が創立当初から掲げた理念は『共生』である。当時を知る人は 確実に減り、その思いを伝えていくことの難しさを痛感しながらも事業存続には 人材の確保が絶対条件であり、次なる事業への先行投資の意味もあり多目に人材を配置してきた。 法人の理念に共感できる人達を育てることは 短期間では無理である。少子化や高齢化問題が長年に渡って叫ばれ続けてきた割に 何かが欠けていると思ってしまう。 それは事業者への規制緩和や箱物を用意することでは、解決にはならないということである。大きな疑問として福祉に携わる仕事が毛嫌いされ 魅力の無い仕事なのだろうか？都市部での特養ホームの3割が赤字という福祉新聞の記事、これは明らかに利用希望者を人手不足の為受け入れられないという事情が裏にある。更に 豪華すぎる建物建設での過大な初期投資の負担が追い打ちをかけている。

我々が掲げる共生は 共に生きること。この度、国が新たな福祉ビジョンとして掲げた地域共生社会と同じである。施設から地域への移行の推進は 今後益々すすむと思われる。それに替わる受け皿や調整の役目を果たす地域生活支援拠点等の整備も計画していかざるを得ない。

正直 この流れは今更という思いもあるが、自らの足元を見つめ直し我々が掲げる「共生」へのプロセスが実効性のあるものであったかどうか？が問われているのです。 それには関係者が現実の課題に対し正面から向き合い覚悟をもって臨むしかないではないか。その事を肝に命じ 今年を 再スタート元年とした。

#### 【IV】 事業継承への思い

我々が目指す 障害福祉に特化する事業体が 国が示す包括的・総合的な仕組みとは開きがあるかの如き誤解を招かない為に、その準備と日頃からの努力が必要となります。そこに質の高い専門性や顧客の満足度が加わり 地域に無くてはならない事業体と認められることが重要になります。

これは 勿論 一朝一夕にできることではなく、地道な活動の積み重ねが成されて初めて 可能になることであると思います。